

事例⑥【オンラインを活用した学習支援】

1 設置状況

設置状況		
学校種	小学校	
開室時間	8:00～16:00	
校内教育支援センターの職員について 専属職員数	1人	
設置する際に工夫した点		
・中に利用児童がいるかどうかを示すカードを入口のドアに設置した。 ・利用児童2名がそれぞれで学習に集中できるように、中央にパーテーションを設置した。 ・利用児童2名が共同で活動できるように、大きな机を設置した。 ・新たに校内インターフォンを設置し、職員が在室したまま連絡がとれるようにした。		

2 実践事例

事例	安心して過ごせる場所としての校内教育支援センター
支援内容	1学期はほとんど欠席しないで登校していたAさんだったが、夏休み明けから欠席が続くようになった。また、Bさんも1学期から欠席や遅刻が多い状態だった。2人にとって安心できる場所として校内教育支援センターへの通室を始めた。個別相談や簡単なゲームから始め、まずは「学校へ登校することへのハードルを下げていく取組を行った。また、教室復帰を急かす働きかけは行わず、センターで過ごしていいという安心感を得られるようにした。
児童の姿の変容	Aさんは当初、車で送る保護者から離れる際に不安のあまり泣くことが多かったが、徐々にそうしたことが減ってきた。Bさんはタブレット端末でオンライン学習に落ち着いて取り組むようになってきた。市費相談員との信頼関係ができており、学習面でのサポートや不安解消のための教育相談などを通じて、安心できる場になってきた。
児童の声	学校の中で、教室に行けなくても過ごせる場所があるのは嬉しいし、オンライン学習で教室の様子が分かるのも嬉しい。教室と同じ勉強をすること、センターで別の活動をするなどについて、自分で決めることができるので、あまりストレスを感じるようになってきた。毎日学校に来れるようになってきたから、センターでの勉強や活動をがんばりたい。

3 成果と課題

成果	・本人や保護者の希望に添う形の支援を行うことで、児童が登校できる日が増えてきた。 ・市費はほえみ相談員の個に応じた指導・援助が奏功し、前向きに学習等に取り組むことが増えた。 ・給食を教室に取りに行ったり、学級の仲間と分担された掃除場所で掃除をしたりするなど、校内教育支援センターの外に出て活動することが増え、学級の仲間と関わることにに対する抵抗が減ってきた。
課題	・限られた人間関係の中で過ごす中で、わがままや自己中心的な発言が見られることがある。 ・センターでの環境が十分に配慮されているため、居心地が良く、意識が教室復帰になかなか向かない。 ・個別学習が多いため、他者との関わりの中で身に付くはずの人間関係調整力が育まれない。

4 今後の方針

・定期的に保護者と懇談を行うことで、学校と保護者の間の意思疎通を欠かさないようにする。 ・当該児童の自己決定を大切にす一方、決まりやルールを意識させる。 ・教室とのオンライン学習を継続することで、学級の一員としての意識をもたせる。 ・状況に応じた個別支援を行う。
--